

数学科シラバス 高校3年

1. 教科到達目標

人間を取り巻く環境や、身の回りで起こる様々な事象に対する科学的な探究心を持ち、数学で学んだ力を通して、積極的に社会に還元する姿勢を養う。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理し、その結果を解釈する力を養う。	数学が社会の様々な分野の基礎を支えていることを踏まえ、物事を数学的に解釈し、基礎的な計算処理を行う力を養う。
--	--	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

<理系数学演習①②>

2. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 理系数学演習	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	6 単位	第 3 学年	・「シニア 数学演習ⅠⅡABC 受験編」(数研出版) ・「2025 共通テスト対策【実力養成】重要問題演習」(ラーンズ)
学習の到達目標	数学ⅠⅡⅢ全般分野について、入試標準レベル問題を解く実力を固める。授業は①(4単位)、②(2単位)に分けて行う。①では大学の個別入試を想定し、答案作成能力を高める。②では大学入学共通テストを想定し、限られた時間内で問題文の意図を把握して解答する能力を高める。		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性> 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めたか。		
	<思考力・判断力・表現力> 記述式試験において、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身につけたか。共通テスト方式において、題意を的確に把握して適切な解法を選べるようになったか。		
	<知識・技能> 各分野の基本事項を理解しているか。重要問題・典型問題の解法が定着しているか。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

3. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
1 ・ 2 学 期	数学Ⅰ AⅡ B全般	・入試標準レベル問題を解く実力を固める。 ・記述試験における答案作成能力を高める。 ・共通テストにおける題意把握能力を高める。	・上記教材をメインに扱うが，必要に応じてプリント教材を配付する。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
＜主体性・多様性・協働性＞			定期考査による総合評価とする。
＜思考力・判断力・表現力＞			定期考査による総合評価とする。
＜知識・技能＞			定期考査による総合評価とする。